

幼児と環境との望ましい関係を求める試み (3)

A Survey on the Desirable Relationship between Children and Environments (3)

森 久子 石塚 盈代

MORI Hisako and ISHIZUKA Mitsuyo

はじめに

筆者らは、環境教育は幼児期から成人に至るまでの生涯学習として位置付けられるべきであるとの考えから、幼児期における環境教育のあり方を模索している。

日常生活の具体的な場面での対処の仕方や、社会的ルールを学習しつつある幼児期に、影響力が大きいと考えられる保護者（主に母親）と保育者を対象に質問紙調査を行なった結果、いくつかの知見を得たが¹⁾²⁾保護者と保育者の各々が幼児に関わる際に見られた顕著な相違点は、幼児に対して身近な自然へ関心を向けさせようとする意識であった。

保護者自身は自然の大切さを理解していても子どもとの関わりにおいては具体的な対応がなされることが少ないことから、保護者自身がその必要性に自ら気づいていってもらえるような具体的な取り組みの必要性を感じ、その一方法として親子での絵本作りの機会を保育現場が提

供する試みを提案することにした。

I. 目的

環境教育は世論の関心の高まりを背景に、小学校以上の公教育の場で平成14年度より本格的な取り組みがなされる予定である。

幼児期の保育・教育の現場では、環境教育としての組織的な取り組みはまだほとんどなされておらず、報告例も少ない³⁾⁴⁾⁵⁾。

そこで今回は次の3点の実現を研究目標とし、実践結果を考察し問題点を明らかにすることとした。

1. 保育現場に対し、環境教育の具体的な事例を紹介することを通して、その他の方法も工夫してもらうためのきっかけ作りとする。
2. 保育現場からの働きかけで保護者と子どもが、楽しく協力しながら絵本作りをする場を設定してもらい、子どもが喜ぶ活動を通して作品の内容について共に話し合う中で、保護者が子

どもを自然と関わらせることの大切さや幼児期からの環境教育の必要性に、自ら気づいてもらう。

3. 今回の企画の提案先は、本学幼児教育学科(保育科)卒業生の勤務先とし、リカレント教育の一助とする。

II. 方法

1. 絵本館への協力依頼(平成13年2月,6月)
大島町絵本館では、これまでも公民館や図書館・学校等からの要請を受けて、絵本作りや絵本の読み聞かせなどの出張講座を実施している。そこで今回の企画を説明して協力を要請し、企画の受け入れ先が決定した時点で、改めて依頼をした。

2. 受入先の決定(平成13年4月～5月)

①本学同窓会名簿(2000年発行)を基に、県下を4ブロックに区分した保育職従事者名簿を作成し、比較的初期の卒業生を中心にリストアップする。趣旨の説明書を送付し、今年度の勤務先・所属長名・受入れの可否を打診する。

②保育現場の責任者(所属長)として従事している卒業生および①で受入れ可能との回答を得た所属長宛に依頼状を郵送し、受入れ可能なら

希望する日時を提出してもらう。(5月)

③受入れ希望先リストを作成し、絵本館の都合とも照合して、実施日程の調整をする。

本年度本学主催の大沢野町公開講座のプログラムにも加えてもらう。

3. 親子手作り絵本教室の実施(平成13年6月～10月)

①受入れ希望先へ絵本館職員と同行し、保護者に対して企画の趣旨を説明してから、絵本館職員が絵本作りの指導を行なう。

②親子での絵本作りの終了時に、保護者に対してアンケート調査を行い、回収する。会場へ同行できない場合は、絵本館職員に託す。

③後日、受け入れ園宛のアンケート用紙を郵送し、記入の上返送してもらう。

④応募作品の中から「C & E賞(Child & Environment賞)」を選び、表彰する。(平成13年10月)

4. 8月までに実施した内容について考察し、今後の課題を明らかにする。(平成13年9～10月)

III. 結果と考察

1. 受入れ先決定までの経過

保育専門職に従事している卒業生に、企画の

表1. 受け入れ先決定までの経過

経過	地区				計	回答		
	I 富山	II 高岡	III 新川	IV 砺波		可	不可	その他
①卒業生への打診数	35	4	25	14	98	13	14	2
②所属長宛の依頼数	8	6	4	4	22	11	11	0
③受け入れ回答数	3	4	1	3	11	10	1	0
④絵本作り実施先数 (+ 公開講座)	2 (+ 1)	4	1	3	10 11			

表2. 親子手作り絵本教室の実施状況(6~10月・10月分は予定)

NO	幼・保別	地区	実施日	受講対象者・数	趣旨説明	作品の種類	注; 作品の材料はあらかじめ受入園の希望を聞き、次の2種類の中から、選んでもらった。
1	A 幼	I	6.15	5歳児親子 51組	○	a	I. 絵本キットを利用する。 a とびだすどうぶつのおやこ絵本 b ぱくぱく絵本 c 布表紙絵本 d とびだすどうぶつ絵本 e とびだすきょうりゅう絵本 II. 牛乳パックを再利用する。 f ミラクルボックス g くるくる絵本
2	B 幼	I	6.29	4・5歳児親子 31組	○	f	
3	C 保	IV	6.30	2~5歳児親子 57組	○	b, c	
4	D 保	III	7.7	4歳児親子 7組	○	g	
5	E 幼	I	7.10	4・5歳児親子 31組	○	d	
6	F 保	II	7.12	5歳児親子 27組	×	f, g	
7	G 保	IV	7.13	3歳児親子 15組	○	a	
8	H 保	II	7.14	4・5歳児親子 22組	×	g	
9	I 保	IV	8.4	3歳~小2親子 10組	×	g	
10	J 保	II	8.9	小1児童のみ 22名	×	a, e	
11	A 幼(再)	I	10.19	4歳児親子			
12	K 保	II	10.30	4・5歳児の保護者のみ			

受入れの可能性を打診してから、実施に至るまでの経緯は、表1. に示す通りである。

表1. の①卒業生への打診の結果、回答があった29通の内、受入れ可が13通、不可は14通であった。

①での受入れ不可の理由としては、多忙な現状では所長に依頼しにくい、園の年間行事予定あり、委託研究事業の予定あり、常勤の保護者が多く平日に集まってもらうことは困難、地元の図書館で類似経験あり、転勤で専門職に従事せず等、様々であった。

②の段階で受入れが不可になった理由としては、日程調整がつかない、保護者会の賛同が得られない等であった。

③の段階で希望日程が重複したために他の日での調整がつかず、止むを得ず取り止めとなった園があった。

いずれにしても多忙な保育現場の様子が窺えたが、その中でも企画の受入れをしていただけた園が11箇所あったことはありがたかった。

対象児の年齢別に2回実施させていただく園もあり、計11箇所12回の実施となる。

2. 親子手作り絵本教室の実施

受入れ園での計12回の実施状況は、表2. に示す通りである。

手作り絵本教室の参加対象は3歳以上の幼児と保護者として依頼していたが、実際に参加したのは2歳から小2までとなった。筆者が同行できたのは、8月までの10回中7回であったが、J保では都合で卒園生のお楽しみ会として実施されたので、企画の趣旨説明は行なわず、6園のみで趣旨説明を行なった。(表2. 該当欄の○印)

説明の内容は、環境教育としては身近な自然

との関わり・省エネルギー・水や空気・食・ごみとリサイクル等が考えられること、幼児期からの教育が必要な理由、特に身近な自然と関わることの大切さについて話した。

1回の時間は幼児の興味持続時間を考慮し、90分程度を都合してもらった。2時間確保できた場合は、保護者に対して過去の調査結果等も踏まえて詳しく話したり、製作後に作品を見せ合う時間を設けたりしたが、90分の場合は趣旨説明は10分程度にし、製作時間を確保するようにした。

作品は、絵本館で扱っている絵本キットもしくは、牛乳パックを再利用するキットのいずれかを利用してもらうことにし、受入れ園へあらかじめ希望の確認をしておいた。各園によって取り組む作品は、表2. 欄外注；にある a～g の7種類でバラエティーに富んでいたが、同じ材料を用いても、その紙面の配色や描かれる内

容はすべて異なっており、個性が発揮されたものとなった。作り方の説明を聞きながらの製本のために時間がかかり、内容が完成しない人もいた。

3. 保護者の反応

親子での絵本製作終了後、その場で保護者にアンケート用紙への記入を依頼し、回収した。同行できなかったうちの1箇所へは配布を絵本館職員に託し、園長に後日回収してもらった。

12回の実施予定中、8月末までに10園で実施したが、その中で8園の保護者に行なったアンケート調査の内容は末尾に、結果は表3. に示す通りである（平均回収率90.9%）。

全体としての感想は全員が、楽しかった(平均81%)・まあ楽しかった(平均19%)で、保護者には好評であったといえよう。

また問6の意見や感想の自由記述欄には表4. に示す通り、アンケート回答者219名中の

表3. 保護者向けアンケート結果

NO	幼保 の別 地区	回 収 (数) (%)		回 答 者 内 訳 (人)					製 作 経 験			全 体 と し て の 感 想 (%)			
				母	父	両親	祖母	祖父	他	有	無	無記入	楽し かった	まあ楽し かった	あまり楽し くなかった
1	A 幼 I	45	88.2	45						11	33	1	71.1	28.9	0
2	B 幼 I	28	90.3	26			1		1	7	19	2	92.9	7.1	0
3	C 保 IV	54	94.7	42	11	1				12	40	2	64.8	35.2	0
4	D 保 III	7	100.0	7						2	5	0	85.7	14.3	0
5	E 幼 I	31	100.0	31						16	15	0	83.9	16.1	0
6	F 保 II	25	92.6	17	3		5			4	21	0	84.0	16.0	0
7	G 保 IV	14	93.3	10	1		2	1		3	11	0	85.7	14.3	0
8	H 保 II	15	68.2	6	7	2				0	5	0	80.0	20.0	0
平均値 (%)		90.9										81.0	19.0	0	

70名(38.2%) が記述しており、その主な内容は次のように大別される。(*印は要望・反省など)

< 2, 3 歳児の保護者の場合 >

自由記述回答……C園, G園

- ・子どもの興味や関心に合っていた。 4
- ・楽しかった。 3
- ・作り方が簡単ですぐに作れるのが良い。 3
- ・家でもやってみたい。 2
- ・親の方が真剣になった。 1
- ・子どもの発想のすばらしさに感心した。 1
- ・今度は自由な材料で作りたい。 1
- *前以て色塗りをしておけばどうか。 1
- *親子活動の後で集中できなかった。 1
- *個々のペースの違いに配慮してほしい。 1
- *もう少し時間があればよかった。 1
- *長時間一緒に楽しく過ごすには難しい。 1

C園では2～5歳児を対象とする保育参観が朝から実施され、そのまま親子で遊戯室へ移動しての絵本作りとなった。親子活動の疲れもあったであろうし、多人数のために人の出入りも多くなり、落ち着けなかった子もいたと思われる。親子での協同製作とはいえ、年長児らに合わせた時間設定となってしまったことも、やや無理があったと考えられる。

G園の場合は3歳児親子のみを対象とし、活動の導入として担任保育士によりペープサートでごみの分別をテーマとする寸劇が行なわれた。

活動スペースに余裕があったことや、途中で休憩(おやつ)の時間を組むなど、時間配分の工夫があったことも、集中して取り組める要因であった。またおやつとして出された紙パック入ジュースを飲み終えた際には、空箱を平らにしてストローとは分別して捨てること等、その場

表 4. 保護者の自由記述内容

NO	幼保 の別	地区	回収数 (人)	自由記述の回答者 数(人) (%)	子どもの年齢別内訳(人)			
					2歳	3歳	4歳	5歳
1	A 幼	I	45	14 31.1	-	-	-	14
2	B 幼	I	28	10 35.7	-	-	5	5
3	C 保	IV	54	9 16.7	1	5	1	2
4	D 保	III	7	3 42.9	-	-	3	-
5	E 幼	I	31	10 32.3	-	-	3	7
6	F 保	II	25	7 28.0	-	-	-	7
7	G 保	IV	14	11 78.6	-	11	-	-
8	H 保	II	15	6 40.0	-	-	5	1
	計		219	70	1	16	17	36

に即して環境教育の適切な指導がなされていた。

< 4 歳ないし 4, 5 歳児の保護者の場合 >

自由記述回答……B園, C園, D園

E園, H園

- ・楽しかった。 9
- ・牛乳パックで作れることが意外だった。 6
- ・家でも作ってみたい。 6
- ・父子のふれあいができてよかった。 2
- ・簡単に作れてよかった。 2
- ・おもしろかった。 1
- ・集中して取り組めた。 1
- ・大切にしたい。 1
- ・牛乳パックでも作ってみたい。 1
- *子どもには少し難しいのではないか。 2
- *もう少し時間があればよかった。 2
- *子どもに落ち着きが無かった。 1
- *2・3歳向けの材料の方がよかった。 1

牛乳パックのキットは、絵本館職員との事前打ち合せの段階で、環境をテーマとするのであ

れば、牛乳パックを再利用しての絵本作りはどうかとの提案を得て、受入れ園での製作品選定の際の選択肢に加えてあった。

前回の調査結果からも、保育現場では牛乳パックは頻繁に再利用されているが主として幼児の工作用材であったり、保育者が製作する遊具や小物入れ等として活用されている。

今回の絵本作りでは、製作に必要な付属材料があらかじめセットされており、取組みやすいことに加えて、立体的な箱に紙を貼って描くという発想が、保護者にも子ども達にも興味を引くものであったようだ。

< 5歳児の保護者の場合 >

自由記述回答……A園, F園

- ・親子で楽しめた。楽しかった。 13
- ・おもしろかった。 2
- ・家でも作ってみたい。 2
- ・親子でふれあえた。 1
- ・よい経験になった。 1
- ・子どもも真剣だった。 1

- ・ほんわかした気持ちになれた。 1
- ・自由な材料で作ってみたい。 1
- ・適切なアドバイスができなかった。 1
- *少し難しい。 1
- *もう少し製作時間が欲しかった。 1
- *説明が聞き取りにくかった。 1

A園, F園は共に5歳児親子での活動であったが、A園では90分で絵本キットを利用し、F園では120分かけて牛乳パック利用の製作に取り組んだ。

絵本キットでは製本が簡単な分、ストーリーを考えて文字で表すことにも集中できたと思われる、牛乳パックを再利用する場合は製作工程が複雑ではあるが、白い画面に自由に描けることもあり、年長児の興味や関心に見合った活動となったと思われる。

4歳児, 5歳児が取組んだ7園中、4園ではいずれも牛乳パックを利用するもの(ミラクルボックス, くるくるえほん)であった。

4. 保育者の反応

この企画を受入れて実践の場を提供して下さい

表5-1. 保育者の回答 (企画から受入れ決定まで)

回答園	1. 妥当な依頼時期	2. 企画の受入れ理由	3. 参加対象 と 対象決定の理由
1. B 幼	前年度末	a.	4, 5歳児(在園児と保護者) 家庭教育学級を兼ねて行なった。
2. C 保	4 月当初	b.	2~5歳児 と 保護者 3歳からが望ましいが保育参観日と兼ねたため。
3. E 幼	5 月	a.	4, 5歳児(在園児と保護者) 親子で一緒に絵本作りの楽しさを味わってもらおう。
4. F 保	4 月当初	a.	5 歳 児 と 保 護 者 内容が年長児に合っていると思った。
5. G 保	4 月当初	a.	3 歳 児 と 保 護 者 園の行事等の関係で、低年齢から環境教育にふれる機会をもつことが大切。
6. H 保	-	a. c.	4, 5歳児と 主に 父親 男女参画子育て支援になるよう父子のふれあいをもつ。製作可能な年齢。
7. I 保	5 月	c.	3歳~小2年生 と 保護者 親子活動と兼ねた。

注; 問 2. 企画の受入れ理由について…… a. 企画の趣旨に賛同 b. 趣旨が園の行事に合致 c. その他

表5-2. 保育者の回答（当日および後日の様子）

回答園	4.当日の様子を見て	5.後日の子どもや保護者の反応
1. B 幼	親子で手際よく作業を分担し、和やかに進めて楽しそうだった。	しばらくの間、園で子ども達同士で遊んでいた。保護者からも楽しかったと感想があった。
2. C 保	親子共に真剣に取り組んでいて大変良かった。 2歳児の参加は他の集中を妨げたかもしれない。	4.5歳児は作った作品をみて話し合っていた。保護者も良い企画だという意見が多かった。 2.3歳では、親の方が楽しんだとか、難しかったという方もいた。
3. E 幼	親子で楽しく会話しながら、一緒に楽しんでいる様子が伝わってきた。 保護者の7人7人の豊かさにも驚かされた。	家で続きを一緒に作ったり、友達同士で見せ合ったり、作品を大切にしている話を聞いた。
4. F 保	普段と違った親子の関わりやほのほとした雰囲気を見ることができた。	友達同士で見せ合ったり、自分の絵に意味付けしながら、お話作りを楽しんでいた。
5. G 保	3歳児の活動時間としては長いと思っていたが、楽しく集中していた。	家で何度も読んで欲しいと言ったり、妹に自分でお話を考えてよんであげていたと聞いた。
6. H 保	親の様々な様子が見られた。子どもの楽しそうな顔が印象的だった。	問かけに「楽しかった」という反応が返ってきた。
7. I 保	参加者の様子を見ながら講師の手伝いをしていた。	楽しかったという意見が多く、家でも作ってみたいしていた。

表5-3. 保育者の回答（今後の企画に対して、本研究の趣旨に関する意見・感想）

回答園	6.今後の企画提案に対して	7.研究の趣旨についての意見・感想
1. B 幼	a.	環境教育はこれからますます重要性を増すので、良い企画で楽しめた。
2. C 保	a.	-
3. E 幼	a.	幼児期からの環境教育を難しく思っていたが、身近な環境について考えるきっかけ作りとわかり、よかった。
4. F 保	a.	子どもたちがとても喜んでいたので、また作ってみたい。他の方法でも子ども達と一緒に作ってみたい。
5. G 保	a.	環境教育を身近に感じとれる機会になり、勉強になった。
6. H 保	a.	「環境教育」としての他の取り組みなどの紹介も聞かせてもらえればなおよかった。
7. I 保	a.	-

注；6.今後の企画について…… a. できるだけ応じたい b. 今は何とも言えない c. 応じかねる

った保育現場10園内8園（A, J園除く）の先生方に対し、今後の参考にするために後日アンケートを郵送し、園の代表者または受入れ担任に回答を依頼した。アンケートの内容は、
問1.依頼時期の妥当性
問2.企画の受入れ理由

問3.参加の呼びかけ対象と決めた理由
問4.当日の様子についての感想
問5.後日の子どもや保護者の反応
問6.今後の企画について
問7.この企画に対する意見や感想 である。
7園の保育者からの回答結果は表5-1. ~

表5-3. に示した。

表5-1. より、今回の企画実施の依頼は5月初旬に行なったが、より早く年度当初の年間計画立案時期に組込んでもらうようにすべきであった。

また企画に賛同された園でも、各園独自の行事に組込む形で実施された園が多く、保護者に園へ足を運んでもらう機会を工夫して下さったことがわかった。

表5-2. および表5-3. からは子ども達や保護者、親子の様子の記事内容からも、実施を受入れて下さった立場からも、企画内容を肯定的に受け止めてもらえたことが伺えた。

また参加した保護者の声を紹介して下さった園もあり、自宅へ持ち帰ってからの参加者のより詳しい様子を把握できた。これらの主な内容は、保護者の立場からのものだが、

- ・意外と簡単で、子どもと一緒に作れたことが楽しかった。
 - ・普段なかなか機会がないことをできて楽しかった。
 - ・子どもが喜んで取組んでいる様子や、家でも大切に扱っている様子を見ることができたことが、親にとっても喜びになっている。
 - ・楽しい夢のある作品が作れた。などであった。また帰宅後の子どもの様子としては、
 - ・子どもが、また作りたいと言っている。
 - ・楽しかったことを思い出して、作品で遊んでいる。
 - ・帰宅後家族に話し、寝るときも抱いていた。
 - ・帰宅途中、楽しかったことを話してくれた。
 - ・一生懸命に取り組む、時間が足りなかったと言っていた。
 - ・上手くできたことを喜び、家でも姉と作ってくれた。
- など、子どもの喜ぶ姿を目のあたりにした保護

者の喜びが伝わってきた。

5. 幼児の反応（製作中の様子および作品から）

製作過程では親子で作業分担をしたり、親が子どもの作業の補助をしたり、親の方が製作に夢中の様子が見られたり、それぞれ微笑ましい光景が展開されていた。また子ども達は、自分の作品を互いに見せ合ったり、指導者にも見せてくれたりして喜んでいて。

製作終了時に保護者にアンケート調査を実施した折、作品募集のお知らせをしておいた。

今回の企画の趣旨を保護者に説明できたのは6園であったが、募集期間を9月にしたこともあり、応募作品は4園からで計35点が寄せられた。

10月初旬に筆者ら4名で審査の結果、「幼児と環境（C&E）賞」として次の5点を選出し、表彰した。必ずしも企画の趣旨を踏まえた内容の物ばかりとは言えないが、いずれも親子で楽しみながら製作できた、という思いが伝わってくるような作品をとという観点から選んだ。

<受賞作品名と主な内容>

・「うさぎさんとなかまたち」（どうぶつ絵本キット使用）

人參の嫌いなうさぎさんのために、他の動物達が知恵を出して食べられるようにしてあげるお話。

・「はなのほん」（布表紙絵本キット使用）

自分が知っている四季の花と、その名前を春から順に、美しい色彩で描いている。

・「なぞなぞぶっく」（布表紙絵本キット使用）

クイズの本。問題の裏ページに答とその図が描かれている。

・「ポケモンミラクルボックス」（牛乳パックのキット使用）

牛乳パックで作った立方体四面を1画面として6画面に描けるもので、大きく伸びやかにポ

ケモンのキャラクターが描かれている。

- ・「うんどう会」(牛乳パックのキット使用)

うさぎの綱引き、アシカの玉入れなど、動物達の楽しい運動会の様子が描かれている。

受賞作品を製作した子ども達の製作過程を、製作当日のスナップ写真の中から探し出してみると、その様子からは、次のような共通点が見受けられた。

- ・説明を聞いてキットを加工し、製本化する段階から、できるだけ自分でしようとしている。

(親に手伝ってもらう部分が少ない。)

- ・製本化した段階で満足してしまう子もいる中で、自分の描きたいことやものがはっきりしているため、周囲の様子を気にせずに集中して製作を続けている。(製本が手際よく、周囲の子よりも早く描き始めたり、文字を書き込んだりする段階にまで進む子が多い。)

などの特徴が見られた。

IV まとめ

昨年までの研究結果から、幼児の保護者は自然の重要性についての知識はあっても、日常生活の中で子どもとの関わりを通してそれに親しませるという実践が少ないことから、保護者自身にその必要性を自覚してもらう具体的な方法を提示することにした。

親子が抵抗なく取り組める楽しい活動を通してじっくりと向き合い、子どもへの関心を向けてもらうことを通して徐々に自然と関わることの大切さに気付いていってもらう方法を考え、その一例として、親子での絵本作りを保育現場へ提案した。

卒業生の勤務園への呼掛けに対し受入れを了解された園では、家庭教育学級や親子の集い等の機会を積極的に利用し、子育て支援の意味も加味して下さった。

大島町絵本館職員の協力を得て、教材の提供と絵本製作の指導に当たってもらったところ、参加した保護者へのアンケート結果からは、楽しかったという意見が大多数を占めた。

親子での活動の場では、大人向けの話に長時間を割くことができず、今回の企画の趣旨説明をどの程度理解してもらえたかは疑問が残るが、親子とも楽しく活動している様子は十分に伝わってきた。子ども達が保護者に見守られながら、目を輝かせて意欲的に製作に取り組んでいた姿が印象的で、うれしかった。

機会を提供して下さった保育者からも、好意的な反応を得ることができた。

以上のことから、今回の目的の一つは達成できたと思われる。

6～8月の間に10箇所を実施することで精一杯ではあったが、卒業生への打診の段階では、企画の受入れがもっと多いと予想していた。保育現場の多忙さと厳しさを感じさせられもした。

根気強く少しずつ理解者を広げていく努力が求められると考えている。

V 今後の課題

今後の課題としては、趣旨をどのように理解してもらいかである。説明の際に自然環境との関わりについての的を絞って話すことができなかつたことが反省点として残っている。また保護者には理解してもらえても、絵本キットの絵柄によって制約があったり、自由に描けるようなキットであれば、製作の際に子どもの描きたいものを作ることになり、趣旨を反映させた内容にしようとするれば、親が作って子どもに読んであげることになってしまう。

10月末には保護者のみで絵本を製作する機会があるので、どんな作品が出来上がるのか期待

している。

親子での製作の場合は、子どもが年長児であれば、親は子どもが困難な部分だけを手伝い、子ども自身が喜んで製作に取り組んでいる様子を見守ることで、喜びを感じている一面もあった。

また事前段階では、互いの作品を見せ合うことが刺激となることも期待していたが、時間的な制約があった。子ども達は互いに周囲の子と作品を見せ合う様子はよく見受けられたが、できれば一人ひとりの作品を親子皆の前で紹介し合う機会をもった方が今回の趣旨を広めることにつながっただろうと、残念に思われる。

また保育者からの指摘にもあったが、幼児期からの環境教育の具体的な実践事例を、もっと多く収集し、それを紹介していくことも趣旨への理解者を広めていく上で必要なことだと感じた。

謝辞

本研究にご協力いただいた幼稚園・保育所の先生方および保護者の皆様、また絵本製作のために出張講座を担当して下さった大島町絵本館職員の皆様、そして「C&E賞」選考にご協力頂いた前本学非常勤講師堀越茉莉子、金岡絃子両先生に深謝いたします。

なお本研究は、今年度の財団法人富山第一銀行奨学財団からの助成を得て行なったものです。

今回の成果を踏まえ、今後は隔年毎に継続して行きたいと考えています。

参考文献・資料

- 1) 森・石塚「幼児と環境との望ましい関係を求める試み(1)」富山女子短期大学紀要第三十五輯 P.1~11 2000.3
- 2) 森・石塚「幼児と環境との望ましい関係を

求める試み(2)」富山短期大学紀要第36巻 P.182~194 2001.3

3) 森 「幼児と環境との望ましい関係を求める試み」日本保育学会第54回大会発表論文集 P.196~197 2001.5

4) 井上美智子「保育者は幼児期の環境教育をどう考えているか」日本保育学会第54回大会発表論文集 P.886~887 2001.5

5) 近藤正樹「環境教育の観点から乳児期の保育を考える」全国保育士養成協議会第40回大会研究発表論文集 P.80~81 2001.9

アンケート

幼児と環境との関わりを考える会

今日は手作り絵本教室にご参加いただき、ありがとうございました。
 どんな感想をおもちでしょうか？今後の参考のために、次のアンケートにお答え下さい。
 以下の項目の回答として当てはまるものを、丸で囲み、()には記入をして下さい。

- ・お子さまの年齢・性別 () 歳児 (男 ・ 女)
 - ・あなたは お子様の (母 ・ 父 ・ 祖母 ・ 祖父 ・ その他 ())
 - ・あなたは今までに絵本作りの経験が (あった ・ 初めて)
 - ・あなたの年代 (20歳前半 ・ 後半 、 30歳前半 ・ 後半、 40歳前半・後半)
1. 全体としての感想は (楽しかった ・ まあ楽しかった ・ あまり楽しくなかった)
 2. 作品製作時間は (長い ・ ちょうどよい ・ もっと必要)
 3. 説明の仕方は (よくわかった ・ 普通 ・ わかりにくかった)
 4. あなたの作品の内容は (身近な自然との関わりについて・省エネルギーについて・
 水や空気について・食について・
 ごみとリサイクルについて・その他 ())
 5. 作品のスタイルは (牛乳パックを利用 ・ 絵本キットを利用)
 6. その他 ご意見・ご感想など、お気づきのことをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

2001. . ()

会場 ()